

Ⅲ-② チームで育てる教育実習(幼小中)

附属坂出学園(幼小中)では、隣接された環境を生かして教育実習期間中に1日、幼小中合同研修日を設けている。研修会では、香川県教育委員会人権同和教育課の指導主事の講話に加え、幼小中の保護者の代表者から話をいただき、感想を共有している。12年間の全校種で大切にしなければならない子供一人一人の人権への意識高揚と幼小中それぞれの発達段階の保護者の思いとエールにより、残りの実習期間をより意欲的に取り組み、質の高い教員を養成することが目的である。

<1 保護者の話の概要>

- ・ 実習期間中、園で実習の先生と泥団子を作ったことなどいきいきと話してくれる。園での活動が多くの実習生のかかわりにより益々楽しくなり保護者として感謝している。
- ・ 実習生が遊んでくれたことや一生懸命授業づくりをして一生懸命教えてくれることをうれしそうに話してくれる。入学当初は登校を嫌がることもあったが、実習生もがんばっているから一人で行くと張り切って登校するようになった。とてもうれしかった。
- ・ 昨日、実習生へ話をすることを19歳の長女に話すと、中3の時に実習生がお別れ会でくれた折り紙を見せてくれた。そこには、長女のよいところやがんばっているところがいっぱい書かれてあり、長女は今もそれをお守りにしているという。我が子をよく見ていることに感謝している。
- ・ 教員はきついイメージがあるけれど、やりがいのある仕事だと思う。アプローチの仕方を変える見方が変わる。子供も成長、親も成長、附属坂出学園とのご縁を大切に、またもどってきてほしい。
- ・ 保護者は皆、感謝していると思う。教員は子供の成長を保護者と一緒に喜べる素晴らしい仕事だと思う。



<保護者からの話>

<2 共有した実習生の感想>

・保護者の話を聞いて、一生懸命かかわっていることをちゃんと子供は保護者に伝え、保護者はそれを喜んでくれていることがわかった。一人一人の子供をよく見つめ、自分が教師としてできることのバージョンを増やしていきたいと感じた。

・授業時間だけでなく休み時間などの子供たちと楽しさを共有したことが、そのまま保護者に伝わり、信頼関係につながるがよくわかった。真から子供と楽しさを共有できる教師になりたいと思った。

・保護者の思いをきちんと受け取り、家庭での子供の様子、学校での子供の様子を伝え合い、子供の行動の背景を読み取り、その子にとって一番よい方法を、保護者とともに考え実践できる教師になりたいと思った。



<感想を共有する実習生>

<3 事後に書かれた実習生の感想より抜粋>

- ・教師(実習生)とのかかわりを子供は家で保護者に伝える。影響力の大きな仕事、それだけ身の引き締まる思いになった。
- ・アプローチの仕方を変えれば見方も変わる
- ・「保護者がどうして家の子だけ」と考えるのは普通のこと。
- ・一生懸命向き合うことで、子供は変わる。実習生の言動一つ一つが景況を与える。実習の意味を考えながら残りを過ごしたい。
- ・子供や保護者とともに自分も成長していく素晴らしい仕事だと感じた。
- ・私たちとの出会いを子供たちがとても楽しみにしてくれていたこと、また、私たちとの別れを寂しく思ってくれていることも分かった。別れが寂しいと感じられるようになっている子どもの姿を成長と捉える保護者の方はすばらしいなあと感じた。
- ・子どもたちをもっときちんと理解できるようになりたいと思った。保護者の方と共に子どもの成長を喜ぶことができる教師になりたい。